

平成 27 年度 大阪府立茨木工科高等学校（全日制の課程）第 2 回学校協議会議事録

日 時 平成 27 年 11 月 2 日（月）15:30～17:00

場 所 茨木工科高等学校 会議室

出席者 委員長 1 名、委員 4 名

校長、事務部長、教頭、首席 3 名、教務主任、進路指導主事、生徒指導主事、
機械系主任、電気系主任、環境化学システム系主任、初任者 5 名

協 議

1．開会挨拶（校長）

本日は忙しいところ、出席をいただき感謝する。平成 27 年度も後期に入り、3 週間近くが経過しようとしている。2 年生の沖縄修学旅行も秋季休業中に予定どおり実施することができた。学校全体としては今週末に文化祭を行う。順調に教育活動が進行している状況である。

各部署から報告させるが、引き続き学校は非常に落ち着いた状況にあり、さまざまな面で改善されている。今年度、2 回目の学校協議会では、主に学校のさまざまな取り組みの進捗状況、中間報告を行う。後期の学校運営・経営に向けて、忌憚のない意見、提言をお願いしたい。

2．協議会委員長挨拶

中間報告、進捗状況から学校の経営計画について、忌憚のない意見を申し上げる。日ごろ、生徒に対しての教育、生活指導に関して頭が下がる思いである。少しでも茨木工科高校がよい方向へ動くよう、協力していきたい。

3．出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介

4．平成 27 年度 前期での本校教育活動について協議

（1）平成 27 年度の学校経営計画の進捗状況について

具体的な取組計画・内容の主なものについて現段階での進捗状況を報告する。

「確かな学力」の育成について

アの少人数、2 展開授業について、効果検証のため 12 月にアンケートを実施する予定である。生徒アンケートによる満足度は次回に示す。

イの中退率の改善について、昨年 10 月末現在の転・退学者は 24 名であったが、今年度は 18 名であり、一定減少している。

オの授業公開の取組について、今年度から公開数を目標にあげるのではなく、全 24 クラスで公開授業を実施し、1,2 年生については、教科担当者間の情報交換を兼ねて研究協議を実施する。1 年生については、6 月に実施済みであり、2,3 年については、まもなく始める予定である。

「安全安心で魅力ある学校づくり」について

（1）のアの遅刻数削減の取組について、詳細は生活指導部から報告させる。現段階で、昨年度比 5 割以上減少している。評価指標には、前年度比 20% 減としているが、総数 5000 以下をめざしており、それが達成できれば、5 割減ということになる。後期が始まり、3 年生は就職が内定

した生徒を中心に気の緩みが出ており、遅刻数が増加する傾向がある。5000 以下達成に向け、教職員一丸となって指導していきたい。

また、身だしなみ、携帯電話、授業規律については、違反カード制を導入し、一定の効果が上がっている。ただ、カード発行のしかたについては、保護者から画一的ではないかという指摘もあり、教員によっては、カードにたよる指導になっている場合も散見され、課題だと考えている。

(3) のアの生徒会主催の校外清掃活動について、今年度は 10 月 13 日に実施した。200 名を越えるクラブ員、保健委員、教員の参加のもと実施することができた。

部活動の加入率については 43% であり、昨年度に比べ 10% 以上低くなっている。それ以前の水準に戻ったという感じである。昨年度は、1 年生の加入率が特異的に上がり、高くなっていた。学校として、50% 以上をめざしているが、困難で手詰まり感がある。

「自立・自己実現の支援」について

(1) のアのインターンシップであるが、参加者 50 名をめざしたが、18 名の参加にとどまった。昨年は 25 名であったので、結果として希望者を掘り起こせなかったと感じている。生徒への意識付け等が課題であると考えている。

(2) のアの資格取得指導については、2 年生電気系の第二種電気工事士の合格率が今年度は 83% と健闘した。

(3) のアの大学進学専科における「大学連携」授業については、工学系から別途説明させる。

「地域連携・地域貢献の取組みの推進」について

(1) のアの中学校教員向けの説明会については 7 月 23 日に実施し、参加者は 16 名であった。昨年は 11 名であったため、少ないながらも増加し、アンケート結果も非常に満足度が高く、来年度以降も実施の方向で検討していきたい。

学校公開については、10 月 24 日にオープンスクールを実施し、中学生、保護者等合わせて 179 名の参加があった。今後、11 月 21 日に実習体験、12 月 12 日と年明けの 1 月 9 日に学校説明会の実施を予定している。入試の大きな制度変更に伴い、志願者の定員割れが十分予想される。2 月に入っても志望校を決めかねている受験生の掘り起こしのため、説明会実施を予定している学校もあり、状況によっては、本校も実施することを考えていかなければならない。

(2) のアの一つ目の今年から計画している 3 系合同の課題研究発表会について、茨木市立生涯学習センターきらめきホールにて、2 月 10 日の午前中に実施を予定している。きらめきホールは、中央図書館近くにあり、移動も便利であるが収容人員が 400 名であるため、今年度については対象を 2 年生に絞って実施する。学校協議会委員にも案内を送付する。時間があれば、生徒の発表の様子を見て欲しい。

2 つ目のアルミ製朝礼台製作、イルミネーションへの参画は、順調に取組みが進んでいる。

(委員長) 質問はないか。

(委員長) 一番成果が上がっているものは遅刻数削減 5 割の取組みなのか。

(校長) 後で生徒指導主事より詳しく報告させる。

(委員長) 授業公開の取組みについて 1 年生は終了し、成果はあったのか。リフレクションペーパーの提出は行ったのか。

(校長) 今年度について、ペーパーは準備していない。

(首席) 1 年生について 6 月に行った。初任者、2 年目、10 年目の教員に授業を公開させた。

授業を行なう時に、見学した教員に振り返りシートを配布し、気になった点や生徒の状況などを記入し、研究協議で用いた。

(委員長) 今後それを受けて、授業者がリフレクションペーパーを提出できるようにして欲しい。

(2) 工学系大学進学専科について

(工学系長) 大学進学専科は今年度2年目を迎えた。1,2年生の高大連携授業計画を立て、実施している。1年生については大阪工業大学、摂南大学との連携については実施済みであり、大阪電気通信大学には今後訪問する予定である。また、出前授業として関西大学から担当者に来ていただき、本校で化学の分野について授業を行なっていただいた。2年生では摂南大学との連携は実施したが、生徒の多くは広く大学に興味を持ち始めているため、決まった大学との連携よりも大学フェアなど多くの大学の説明が聞くことのできる会場に引率してきた。年度末には今年1年間で話を聞くことができた大学の内容を生徒同士が共有できるよう、報告会を開催する予定である。今後は希望者であるが、大阪工業大学の体験授業を受ける予定である。また、実力テストとして外部模試を取り入れ、全員受験させる。

(委員長) 質問はないか。

(委員長) 連携大学が決まりすぎているように感じる。この中から選べという指導をしているのか。

(工学系長) 大阪工業大学と連携を結んでいるため、連携の回数は増えている。また、本校の立地条件や大阪電気通信大学、摂南大学への過去の進学実績から大学は選んでいる。この中からという指導ではない。

(委員長) 入りたい学部に適した学習方法の指導などは大学から指示は来るのか。

(工学系長) 入学してから必要になる内容の説明はしていただいている。

(委員長) 生徒に対して具体的に伝え、進めてもらいたい。

(3) 授業アンケートについて

(校長) 7月と12月の2回、非常勤講師を含めたすべての授業担当者に対するアンケートを生徒に実施している。7月の結果について、報告させていただく。

9つの質問事項について聞き、4段階のどれにあたるかをマークシートで回答する形である。よくあてはまるが4点、ややあてはまるが3点、あまりあてはまらないが2点、まったくあてはまらないが1点とカウントしている。

まず、各教科から説明する。地理歴史と理科がすこし低い数値となっているが、各教科大きな差はない。数学は昨年、一昨年と比較し、かなり改善している。

学年別で見ると、9項目の平均は1年生2.95、2年生3.24、3年生3.16となっている。1年生は昨年度が、3.15であったので、少し下がったが昨年の1年生がよすぎたということも考えられる。2、3年生ともに昨年よりも改善している。トータルで見ると数値的には、特筆すべき変化はない。

(委員長) 質問はないか。

(委員長) 理科は理科の教員全員の平均であるのか。

(校長) 理科のなかで、物理について生徒の理解が低いと考えられる。

(委員長) 教員によってばらつきはあるのか。

(校長) ばらつきはあると感じている。しかし、科目の特異性もあると考えられる。

(委員長) 評価の低い教員に対し、指導はあるのか。

(校長) 教育委員会の指示のもと、校長が他の教員以上に指導することになっている。実際にその教員の授業を見学しても、崩壊しているわけでもなく、進め方についても問題がないように感じる。数値の低い先生は、授業スキルなどが低いわけではなく、生徒の求めるものと、教員の教えなければならない内容が一致していないと考えられる。

(委員長) PDCAサイクルが重要であると感じるのでアンケートでとった数値の改善は望みたい。

(委員) 中学校でも同じ結果が出ている。教員のスキルが低いわけではないが生徒とのコミュニケーションがうまく取れていない教員の数値は低くなっている。

(委員長) 改善する方法は見えていると思うので、生徒とのやり取りを改善してほしい。

(校長) そのように指導していく。

(4) 平成 27 年度生徒指導中間報告

(生徒指導主事) まず、身だしなみ指導に関して報告する。本年度から身だしなみについて強化した。ズボンの裾を正す指導などを取り入れ、過去と比べ、はるかによい身だしなみとなっている。

次に、今年度より遅刻指導も大きな改革を行った。全体指導ではなく、個々の生徒の遅刻回数に応じた指導をきめ細かく行っている。遅刻回数の多い生徒には早朝登校させ、通用門で挨拶運動をさせている。また、年 2 回生活強調週間を行い、朝に多くの教員が校内の色々なところに立ち、生徒に挨拶をしている。この結果、昨年の 50% 以下となる見込みである。

3 点目は授業規律、段階的に指導を行うことにより落ち着いた授業が行われている。

4 点目は懲戒指導を行った生徒に対して事後の指導を計画的に行った。授業中の態度を教科担当にチェックしてもらい、指導を受けた生徒に改善がみられるか確認している。

5 点目は自転車マナーについて指導した。今年の 6 月から道路交通法が改正されたことを受け、警察など関係機関と連携し、実演を交えた交通安全講習会を実施した。講習会后、生徒の質問も多く、内容がよかったと感じている。

今後の課題は携帯電話など、ネット上のモラル、肖像権や他者に対する誹謗、中傷など、生徒の意識を高めることが大切であると感じている。また、授業規律違反カードについても課題があると感じている。カードに頼る指導ではなく、生徒との関係を築くことが大切であると感じる。違反カードは抑止力として利用ほしい。

(委員長) 質問はないか。

(委員) SNS によるトラブルが増加していると感じるが、どのような対策をしているのか。

(生徒指導主事) 問題になるのは生徒の方が SNS などについてスキルがあり、こちらのわからないところで犯罪に近い行為が行われているということである。若い教員や SNS などのスキルが高い教員が中心となり、生徒の行動について教員全体が理解する場を設けている。生徒すべての適切ではない行動を指導できているとは思わないが、発見されたものに対して、時間をかけ丁寧な指導をしている。いじめなどにつながらないように未然防止に努めている。

(委員長) 遅刻 50% 減に達する見込みであるということだが、3 年生の進路決定者の遅刻増加について対策はあるのか。

(生徒指導主事) 少しの増加はあると考えるが、段階により指導方法が変わるため、一定の回数で止まる予想である。また、3 年生は多くの教員と人間関係ができており、教員の話で食い止めていく。

(委員長) 情報マナーの講習会はぜひ実施してほしい。時間、予算は取ることができるのか。

(校長) 電話会社などは無料の講習会を開いていただけ。行事予定から実施可能か検討する。

(5) 平成 27 年度の進路状況等について

(進路指導主事) 7 月より求人票の受付を始め、現在では 560 件の求人いただいている。すでに昨年 1 年間の求人件数を越えている。生徒が希望する企業を決定する時点で 500 件を超えていた。学校紹介による就職を希望する生徒は 76% で昨年と大きな変化はない。昨年との変化は専門学校を希望する生徒が減っていた。進学について四年制大学を希望する 22 名のうち 14 名の進路が決定している。ほとんどの生徒が指定校推薦により決定しており、その他 AO 入試での合格者もいる。専門学校についても 9 名の生徒が合格しており、全て AO 入試で合格している。本年度も接続コースの生徒のほとんどが進学している。

学校全体の就職一次試験の合格率は 71.8% で昨年度と大きな変化はないが、環境化学システム系の内定率が非常によかった。二次試験を受験することになった生徒についても、担任の積極的な働きかけが通じ、多くの生徒が内定をいただいた。未定者は十数名となっている。すべての生徒

が希望する企業に就職することができるよう指導を続けていく。

(委員長) 只今の報告に関してご意見、ご質問はないか。

(委員長) 一次試験の内定率の目標は達成しているようであるが。

(進路指導主事) 一次試験の結果は全て出ており達成した。

(委員長) 学校経営計画にはないが、最終的には内定率 100%が目標であることは間違いないか。

(校長) 当然目標としている。

(6) 平成 27 年度資格取得中間報告

(首席) 現在の確定人数である。第二種電気工事士についても下期の試験があるため結果は示せていない。危険物取扱者では甲種を取得した生徒がいる。検定試験は年 2 回実施するものが多く、まだ中間報告である。

(委員長) 中間報告であるのでまだ何とも言えないが、まとめた担当者として増減が起こりそうなものはないか。

(首席) 第二種電気工事士については昨年と比較し少し減ると考えられる。逆に検定試験では増える予想である。

(委員長) 全体についてお気づきの点などないか。

(委員) 中退率について気になるが説明してほしい。高校生活を知らないまま入学していることも原因であるのか。今年もその傾向はあるのか。

(校長) ミスマッチ、不本意入学について数を把握することは難しい。一昨年は志願倍率が低く、不本意入学の生徒も多かったと感じている。中退の理由で一番多いものは学習についていけないことである。また、普通科高校に転学したい生徒は通信制・単位制高校へ異動する傾向がある。

(委員) 中学校への説明をしっかりと行ってほしい。

(校長) 訪問はしているが、生徒や保護者まで説明が届いているか不安である。

(委員長) 以上で協議を終了する。

閉会の挨拶

(校長) 後期に改善する方策を検討し、実施していく。第 3 回の学校協議会でよい結果を報告したい。特に遅刻について 5000 件の目標を達成していきたい。また、志願者の増加についても最後まで中学校などへ働きかけを粘り強く行っていく。

事務連絡

(教頭) 第 3 回学校協議会の希望日時を調整するため書類を郵送する。